



徹底比較！ ローコスト住宅 × 高性能住宅

新築の検討で直面するのが建築費用です。
同じような間取りでも工務店や
ハウスメーカーによって見積もり額はまちまち。
もちろん、少しでも安いに越したことはありませんが、
その考え、はたして正解なのでしょうか？

ライフサイクルコストでわかる 建物の本当の価値

住まいを新築しようと住宅展示場や工務店、ハウスメーカーを訪れてモデルハウスを見たりプランを立てて見積もりを提示してもらうと、やはり気になるのが建築費用です。

費用の安い、いわゆるローコスト住宅に魅力を感じるのは当然ですが、ここで考えて欲しいのがライフサイクルコストです。住宅におけるライフサイクルコストとは、「建築から解体に至るまでの総費用(生涯費用)」のことを指します。ライフサイクルコストは、住宅の設計から建築までのインシヤルコストと、冷房や暖房、照明などのエネルギー費や保全・改修費などのランニン

グコストで構成されます。新築時は、建築費や土地取得費などのインシヤルコストだけに目が行きがちですが、それだけではなく、建物を建ててからのランニングコストについても十分に考慮する必要があります。ライフサイクルコストを基に考えると、「その建物は本当に価値があるのか？」が自ずと見えてくるのです。

ランニングコストを 大幅に抑制できる「FPの家」

新築時によく陥りやすい間違いは「建築費をできるだけ安く」という考え方です。ローコスト住宅を新築して、住んでみたら驚くのが想像以上の光熱費。ローコスト住宅は断熱性能の低

さから外気温の影響を受けやすく、冷暖房にかかる光熱費がかさみます。毎月の小さな違いも数十年経てば百万円単位の違いになるので、決して軽視できません。

また、新築時に考慮に入れず後から後悔するのが修繕費のこと。雨風にさらされる外壁や屋根は経年劣化が避けられませんが、「FPの家」なら修繕費を抑制できるのと同時に、万が一の災害にも強いいため、大規模な修繕を抑えることも可能にします。

さらに、火災保険や地震保険の割引制度の恩恵を受けることができるほか、長期優良住宅の認定を受けた住宅であれば、住宅ローンの控除や不動産取得税、登録免許税などの減税措置を受けられる場合も。また、ローコスト住宅は耐用年数が短く、数十年後には資産価値が大幅に下がってしまうのに比べ、「FPの家」だと、長期に渡って快適に暮らせるのと同時に資産価値が高く、仮にライフスタイルが変化して住み替えることになっても有利な条件で叶えられます。

このように、新築を検討するには建築費などのインシヤルコストだけでなく、住んでからのランニングコストも視野に入れて考える必要があるのです。

